

日本企業の法務機能強化に 法曹が果たすべき役割

平成30年2月26日

名取法律事務所代表

弁護士 名取 勝也

日本企業の法務機能において 改善・強化が必要なところは何か？

1. 戦略性

(1) リスクの見極めのカ

- ・ 取って良い(取るべき)リスク vs 取ってはいけないリスク
- ・ パートナーとガーディアン

(2) 意思決定のスピード

- ・ シミュレーションとデリゲーション

2. グローバル・マネジメント力

- ・ 遠慮しすぎ、任せ過ぎ

3. 経営側

- ・ 法務を早め(事前)に活用しない(問題処理機能と見ている)
- ・ General Counsel の不在(CFOは定着しつつあるのに)

日本企業の法務機能強化に役立つ法曹には どのようなものが必要か？

1. 提案力・創造(想像)力

- (1) 取って良い(取るべき)リスクへの対応力
- (2) 目標達成へのゲームプランを描ける力
- (3) 社内外の様々な事情・要素への感受性と対応力

2. 決断力と強さ(独立性)

- (1) 取ってはいけないリスクへの妥協なき対応力
- (2) 明確な方針決定と徹底する力・強さ

3. 高い実務能力

- (1) 結論 → 理由(他の選択肢の検討)の明確さと現実性
- (2) 広く深い専門性と企業及び市場に対する洞察力

日本企業の法務機能強化に役立つ 法曹養成にはどのような教育が必要か？

1. 先例依存教育を変える

- (1) 過去の踏襲では企業は競争に勝てない - 先例を超える
- (2) 先例は役に立たない - 先例のない難問ばかり
- (3) チームでのブレーストやケース検討が有効

2. コミュニケーション力を向上させる

- (1) 言語能力は必要条件ではない
- (2) 相手の発想の傾向や”響く”ところを理解して、説得・合意させる力

3. 幅広い視野や発想を醸成する

- (1) 世の中(特に企業社会)は、法律が重要だが、それだけではない
- (2) 経済や経営への関心を高める - 経営側の積極的関与